

YMCA NEWS 金沢青年

No.30(2022年5月号)

発行所:金沢キリスト教青年会 〒920-0998 金沢市里見町 44-1 里見町タウンハイツ 201

TEL/FAX(076)255-7782

<http://sophiruka.sakura.ne.jp/kanazawaymca/index.html>

心の中からこぼれ出てきた思い

—プーチン政権に支配されたロシアのウクライナ武力侵攻について心得たいこと—

金沢 YMCA 理事 田口 昭典

連日、ウクライナに対するロシアの侵攻に関する報道があとを断ちません。日本は無条件降伏をして、戦争放棄をうたった平和憲法のもと、76年間も平和に、そして豊かな国を整えてきました。この平和を得るために、アジアで 2000 万人、日本でも 310 万人もの人々が尊い命を失いました。その多くは、非戦闘員と言われる一般の民間人です。戦争の苦しみは、乳飲み子、幼児、女性、年老いた人々に大きくのしかかります。正しい戦争はありません。正義の戦争はないのです。戦争は悪そのものです。

2月24日以降、ロシアのウクライナ侵攻のニュースを見るたびに「義憤」が湧き上がります。「悪いロシアとかわいそうなウクライナ。ロシアをやっつけろ！」と。同時に、ニュースを見るたびに私の心が痛みます。いとも簡単に命が奪われていく。子どもたちの命が奪われている。

わたしは幼児教育に携わってきました。そしてこの戦争の映像が幼児の心に与える影響を心配しています。「悪いロシアをやっつけることは正しいこと、良いこと」という思いを与えはしないかと心配しています。「悪いことをしたお友達にはパンチをしてもいい」とのメッセージを植え付けはしないかと。

ロシアに対しては、全ての論調が問答無用で「悪」として捉え、その考えの上で様々な議論がなされています。命がけでウクライナの領土と国民を守ろうと頑張っているゼレンスキー大統領を称賛し、ウクライナ応援に一所懸命になっています。

日本の国会でも彼は演説し、議員たちが総立ちで拍手をし、「感動しました」と感想を述べる議員までいました。これで世界の平和は守られるのでしょうか。政治が対話を手放し、力、軍事力による問題解決に向かうということは、政治が自ら平和を実現するための努力を放棄したことであり、政治の敗北です。

欧米諸国は、ウクライナに武器弾薬を支援し、完全に代理戦争の様相を呈しています。ウクライナをロシアの拡張主義を抑える砦と考えています。ロシアも、欧米勢力を退けるための守りとしてウクライナを敵に渡すことはできないと考えています。両陣営の間でウ

クライナの苦悩は重く深まるばかりです。

歴史は私たちに戦争がどれほど悲惨なものであるか、国際紛争解決のためには、いかに愚かな道であるかを教えています。要するに、力によって相手を押さえ込もうとする考えはもうすっかり破綻しているのです。

全世界はそのことをすでに学んできました。第一次世界大戦後、1928年、アメリカ、フランス、ドイツ、イギリス、日本など当初15か国によって、後にソ連など63か国が参加した「パリ不戦条約」があります。ここでは、国際紛争を解決するための手段としての戦争を禁止し、平和的手段でのみ解決を図ることが決められたのです。今の日本国憲法はこの精神を受け継いでいます。かつて世界は戦争放棄を約束したのです。しかし、その10年後には第二次世界大戦が起きました。人類はなんと愚かなのでしょうか。

ベトナム戦争があり(南335万人、北478万人の死者、半数以上が民間人)、アメリカは猛毒のダイオキシンを含んだ枯葉剤を大量散布し、その後遺症は今日にまで及んでいます。カンボジアでは内戦によりポルポトのクメール・ルージュによる大量虐殺事件があり、1975年～1979年の間に全国民の4分の1にあたる200万人が、ただ「文化人である」という理由で虐殺されました。

残虐行為をしているロシアをバッシングするのは当然です。しかし、その時、そっと手を胸に当て考えましょう。我が国も76年前、同じことを行なってきたのだと。人類は学ばなければなりません。そして決断しなければならぬのです。もう戦争は終わりにしよう。敵味方の峻別ではなく、違いを認め、多様な価値観を分かち合い、共に生きる道を築いていこう、と。

ロシアの戦車が破壊されたら喜び、ウクライナが戦闘機を撃墜したら大喜びし、一般市民の怪我、死、苦しみを見ると心が痛み同情心が芽生え、ロシアを憎む。この心をコントロールするのは難しい。感情が



意思を飲み込んでしまいます。でも、私たちは想像力をたくましくしなければなりません。ロシア人にも愛する母がおり妻子がおり、兄弟がおり恋人がいます。愛のつながりの中にある一つ一つの命はかけがえのない命です。ロシアの人々も情報をコントロールされ、真実が伝えられていないのです。ロシアも戦場で多くの犠牲者を生んでおり、その家族はウクライナの人々と同じ苦しみを味わっているのです。

マスメディアは人々の感情を煽る報道ではなく、抑制し、考え、平和の大切さを訴える責任があります。ミャンマーの軍事クーデターの報道はもう忘れ去られたかのようにです。あの非人道的な迫害をなぜ継続して報道しないのか。ミャンマーではロヒンギヤの人々が、恒常的に暴力、性暴力、多くの迫害と人格を無視した扱いを受け、命の危機の中に置かれています。バングラディッシュの難民キャンプには 90 万人以上のロヒンギヤの人々が暮らしており、アジアで一番大規模な難民キャンプになっています。我が国はロシアへの経済制裁は欧米と足並みを揃えて行なっているのに、なぜミャンマーの軍事政権に対しては制裁をしないのでしょうか。

生命への畏敬を欠いたものに真実はありません。なくてよい命はなく、命に優劣はないのです。すべての人が生まれながらに幸せに、平和に生きる権利を有しているのだと日本国憲法はうたい、憲法前文には、「いずれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならない」とあります。

ブッダの教えを伝える法句経(ダンマパダ、紀元前5世紀)には次のような教えがあります。「己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ。」と。「今、暴力によって殺される者の立場に自分自身をおけば、その悲しみや恐れがわかるだろう。そうしたら殺せなくなる。」という意味です。

旧約聖書イザヤ書 2 章 4 節には神の言葉として「彼らは剣を打ち直して鋤きとし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」(紀元前8世紀)という教えが記されています。これはニューヨークの国連本部にも掲げられているそうです。イエス・キリストは「剣をさやに納めなさい。剣を取るものは皆、剣で滅びる」(マタイによる福音書 26 章 52 節)と教えています。

最後にアッシジの聖フランチェスコの「平和を求め祈り」を！

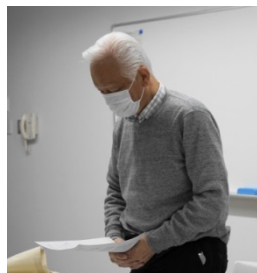
神よ、
わたしをあなたの平和の道具としてお使いください。
憎しみのあるところに愛を、
いさかいのあるところにゆるしを、
分裂のあるところに一致を、
疑惑のあるところに信仰を、
誤っているところに真理を、
絶望のあるところに希望を、
闇に光を、
悲しみのあるところに喜びを
もたらすものとしてください。
慰められるよりは慰めることを、
理解されるよりは理解することを、
愛されるよりは愛することを、
わたしが求めますように。
わたしたちは、与えるから受け、ゆるすからゆるされ、
自分を捨てて死に、
永遠のいのちをいただくのですから。

(女子パウロ会 hp より)

2022 年度第 1 回評議員会・第 2 回理事会・定期会員総会 合同で開催

2022 年 5 月 20 日(金)午後 7 時 15 分～8 時 45 分、金沢市長土堀青少年交流センター 3 階研修室にて、2022 年度第 1 回評議員会・第 2 回理事会・定期会員総会が合同で開催された。

参加者は理事:朝倉秀之・山口ミハル・幸正一誠・田口昭典・平口哲夫(以上 5 名)、評議員:朝倉みゆき・伊藤仁信・数澤輝夫・八反順一郎(以上 4 名)、監事:竹中丈晴(以上 1 名)、委任状は評議員:井川英・藤井辰男(以上 2 名)。



開会挨拶

理事長 朝倉秀之

I 開会礼拝 司会 幸正一誠

交読文「日本 YMCA 基本原則」

司会:私たち日本の YMCA は、イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、

一同:世界の YMCA とのつながりのなかで、次の使命を担います。

司会:私たちは、すべての人々が生涯をとおして全人的に成長することを願い、

一同:すべてのいのちをかけがいのないものとして守り育てます。

司会:私たちは、一人ひとりの人権を守り、正義と公正をもとめ、

一同:喜びを共にし痛みをわちあう社会をめざします。

司会:私たちは、アジア・太平洋地域人々への歴史的責任を認識しつつ、

一同:世界の人びとと共に平和の実現に努めます。

讃美歌 234 番 A 1・2

一同

聖書 ヨハネによる福音書 第15章1～5節
 司会者
 祈禱 司会者
 讃美歌 234番A3・4 一同

II 理事会・評議員会

理事会議長は朝倉秀之理事長、評議員会議長は数澤輝夫評議員が担当した。

2021年度第1回理事会・評議員会(2021年5月28日開催)、2021年度第2回理事会(2022年3月18日～22日Eメールにより開催)、2022年度第1回理事会(2022年4月15日開催)などについての報告のあと、議事に入った。

1. 2021年度収支決算報告・監査報告

山口常務理事から収支決算報告、竹中監事から監査報告がなされ、理事会・評議員会の両会議において承認された。

2. 2022年度活動計画・予算案

新型コロナウイルス(以下、コロナと略称)流行などの影響により、活動計画を明確に立てることができないことが多く、活動計画・予算案ともに暫定的なものとなった。

①たけのこ掘り体験事業:コロナ流行の影響で中止となった。

②わいわい農園事業:北陸学院の都合により、同学院農地を借用して実施することが困難になり、他の農地を借用して実施することも高齢化した会員で実施するのも困難であることから、当面中止とする。

③ソトゴハン～ひとり親家庭の絆プロジェクト～事業:コロナ流行の影響で実施できない見込みであるが、金沢ワイズメンズクラブのメネット会が中心となって秋に開催する芋煮会に「ひとり親家庭」の親子を招待する予定である。

④広報事業:年4回のニューズレター発行、ホームページの更新、リーフレットの更新は実施する予定である。

⑤ユースリーダー育成事業:コロナ流行の影響で実施できない見込みであるが、各事業と提携して横断的に行うことを検討する。

⑥腹話術教室:コロナ流行の影響があつてか、前年度も参加申込がなかったので、今年度も同様の経過をたどる可能性が高いだけでなく、講師の田口理事の都合により、この事業も中止となる見込みである。

⑦従来、青团連(金沢市青少年団体連絡協議会)関係で実施してきた活動のうち、長土堀フェスティバル、ユニセフ街頭募金は新型コロナウイルス流行の影響により実施できなくなる可能性がある。なお、新桜橋緑地公園(通称W坂)におけるクリーンキャンペーンは、金沢YMCA事務所のある里見町から堅町通りにかけての清掃とは別に、金沢犀川ワイズメンズクラブがステージIIとして実施していたものに他の金沢YMCA会員も参加するようになり、金沢犀川クラ

ブが2019年6月末をもって解散してからは、金沢YMCAの活動として実施され、金沢ワイズメンズクラブの事業としても行われるようになった。金沢クラブの会員も金沢YMCAの会員であり、また、国際ワイズメンズクラブ西日本区・東日本区のHANDBOOK & MEMBERSHIP ROSTERには、ワイズメンズクラブの目的として「第一にYMCAのためのサービスクラブとして活動する」が掲げられているのだから、金沢YMCAと金沢クラブとの共催で実施してほしいとの要望があった。

3. 2022～2004年度評議員の選任

定款第10条「この法人に評議員5名以上10名を置く。」(この評議員数の改正は承認済み)、定款第11条「評議員の選任及び解任は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第179条から第195条までの規定に従い、評議員会の決議をもって行う。」に従い、評議員として出席者の中から朝倉みゆき、伊藤仁信、八反順一郎の3名が再任された。委任状が提出されている欠席者の井川英二、藤井辰男の再任については、本人から再任の承諾を得ることができるかどうか、確認が必要である。

4. 2022～2003年度理事の選出

定款第24条「第3条に示された目的を推敲するためにこの法人に、次の役員を置く。(1)5名以上7名以内(2)監事2名以内」、定款第25条「理事及び監事は評議員会の決議によって選任する。」、定款第28条「理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結までとし、再任を妨げない。」に従い、朝倉秀之、山口ミハル、幸正一誠、平口哲夫の4名が再任、竹中丈晴が新任として、以上5名が選任された。

5. 2022～2033年度監事の選任

定款第28条「2 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時評議員会の終結までとし、再任を妨げない。」に従い、数澤輝夫が監事に新任された。山野晋が再任を承諾して下さるかどうかの確認が必要である。

III 定期会員総会 司会者 平口哲夫

YMCAの歌

- 若人の あつきのりは
 百年の歴史をつづる
 とこしえの のぞみにもえて
 さかえあり
 YMCA われらまた
 こぞりて起たん

懇談「金沢YMCAの将来構想について」

最初に高齢化問題について司会者から指摘されたが、時間切れのため、懇談には至らなかった。

IV 閉会挨拶・祈禱 常務理事 山内ミハル *文中、敬称略 (文責 平口哲夫)

